

企業ニュース 王子ホールディングス

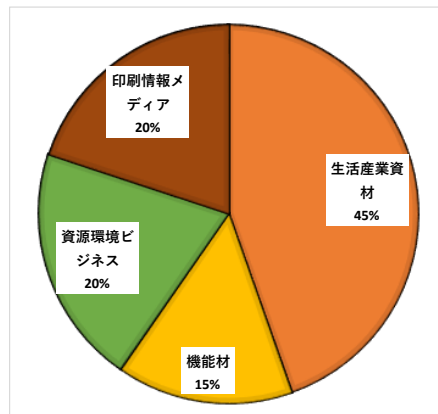
(東証1部 : 3861) <https://www.ojiholdings.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

国内大手製紙メーカー

1949年、過度経済力集中排除法により、旧・王子製紙が苦小牧製紙（後の王子製紙）、本州製紙、十條製紙（後の日本製紙）の3社に分割された。1952年、苦小牧製紙は王子製紙工業（1960年、王子製紙）に商号変更した。1993年に神崎製紙と合併（新王子製紙に改称）、1996年に本州製紙と合併（王子製紙に改称）した。2012年、純粋持ち株会社へ移行し、現社名に改称した。国内最大手の製紙メーカーで、事業領域は段ボール原紙・加工品、白板紙・紙製品、新聞用紙・印刷用紙など様々な紙製品を手掛ける他、パルプ・木材やエネルギーなど多岐にわたる。2019年3月、三菱製紙の株式を第三者割当増資引き受けにより追加取得（議決権比率33%）し持分法適用会社とした。

◇18. 3期セグメント別売上高構成比



(注) 報告セグメントのみ、内部取引を含む

(出所) 王子ホールディングス資料よりCAM作成

海外事業、価格是正効果が業績をけん引

19.3期業績の会社計画は、売上高が1兆5,500億円、前期比4%増、営業利益が1,100億円、同55%増。第3四半期決算時点の業績は、売上高、営業利益ともに通期計画に対する進捗率は76%で、ほぼ会社計画に沿った着地と想定する。19.3期を最終年度とした中期経営計画における営業利益目標（1,000億円）は超過達成できよう。海外事業の拡大、国内の価格是正効果などにより増収。増収に加えコストダウン効果等も寄与し、営業利益は大きく伸長した模様。なお、通期決算の発表は5月13日を予定。

20.3期業績も増収・増益を予想。洋紙・新聞用紙などの需要は縮小しようが、段ボール需要の拡大継続を予想。価格是正も浸透しよう。コスト面では、物流費上昇など厳しい環境は続くが、古紙価格やエネルギー価格は落ち着いており増益貢献が期待できよう。3月29日に三菱製紙を関連会社化、シナジー効果などで22.3期に営業利益25億円以上の収益改善効果を想定。同社との業務提携による家庭紙合弁事業、バイオマス発電事業等の収益貢献も期待したい。

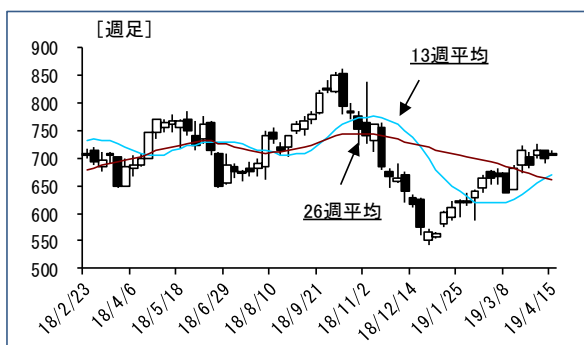
[株価動向・投資判断]

段ボールに加え洋紙などでも価格是正が進んでいる模様。海外事業拡大、コスト削減、M&Aなどによる収益貢献も続こう。中期的な視点で、押し目を狙いたい銘柄。

<3861 王子HD 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,439,855 (0)	70,243 (▲ 2)	52,949 (▲ 13)	40,270 (217)	40.7	10.00
18.3	1,485,895 (3)	70,781 (1)	65,958 (25)	36,222 (▲ 10)	36.6	10.00
19.3 推	1,550,000 (4)	110,000 (55)	100,000 (52)	50,000 (38)	50.5	12.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2019/4/15)	704 円
年初来高値(高値日)	726 円(19/4/3)
同 安値(安値日)	555 円(19/1/4)
予想 P E R (19.3推)	13.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	680.2 円
P B R	1.04 倍
予想配当利回り	1.70 %
(1株当たり配当金12.00円)	
R O E (18.3)	5.6 %
発行済み株式数	101,438 万株